

## 平成 29 年度 横須賀高等学校 (定時制) 不祥事ゼロプログラム実施状況

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令順守意識の向上	職員行動指針・懲戒処分の指針を再確認し、公務外非行をゼロにする。	<p>○「神奈川県職員行動指針」及び「懲戒処分の指針」をもとに、県の職員として求められる行動を再確認した。</p> <p>○打ち合わせや職員会議等で不祥事に関する事例や新聞記事を紹介するなど、日々注意喚起するとともに、重点的・喫緊の課題については、事故防止会議を実施して徹底した。</p> <p>【達成状況】 公務外非行はなかったため、「目標達成」とする。</p>
わいせつ・セクハラ行為の防止	生徒との接し方に注意し、セクハラ・わいせつ行為と受け取られることがないようにする。	<p>○1月に職場研修を実施し、生徒や保護者がわいせつ・セクハラ等の行為について、すぐに相談できる体制を整備し組織的な対応をとることを確認した。</p> <p>【達成状況】 わいせつ・セクハラ事案はなかったため、「目標達成」とする。</p>
体罰・不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、身体的なものだけでなく言葉による暴力を含めた体罰、不適切指導を根絶する。	<p>○体罰や不適切な指導を根絶するために職員の意識統一を図り、気づいたことを指摘し合う職場環境をつくった。</p> <p>○8月に全職員を対象にした職場研修を実施した。</p> <p>【達成状況】 一人ひとりの職員が生徒に対して懇切丁寧な対応を心掛け、体罰等の不適切な指導はみられなかったため、「目標達成」とする。</p>
入試選抜、成績処理、各種証明書等の作成・発行に係る事故防止	入試選抜、成績処理、証明書等作成に係る事故防止をゼロにする。	<p>○前年度の業務及び日常の業務を再点検して課題を把握しその改善を図った。</p> <p>○全職員でマニュアルや手順等の共有と着実な実施を行った。</p> <p>【達成状況】 入学者選抜、成績処理、証明書作成において着実な業務遂行ができたため、「目標達成」とする。</p>
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	全職員が個人情報の適切な取り扱いをする。	<p>○個人情報の持ち出しに関する手続き等について再確認し、個人情報の漏出、紛失、誤廃棄、誤配付、誤送信の未然防止を徹底した。</p> <p>○文書類も含めて管理されている情報の点検を実施し、保存期限の過ぎた文書・情報について起案し、複数の目で確認の上、確実に廃棄を行った。</p> <p>【達成状況】 個人情報の持ち出しを必要最小限に抑えただけでなく、その管理もしっかりと行うことができたため、「目標達成」とする。</p>

交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通事故の発生を未然に防止するとともに酒気帯び運転や飲酒運転を根絶する。	○12月に全職員を対象にした交通法規、処分事例などに関する資料を配付して交通事故防止意識を高めるとともに、事故発生時の対応等についても周知した。 【達成状況】 職員による交通事故や交通違反はみられなかったため、「目標達成」とする。
会計事務等の適正執行	会計事務を適切に行い、不適正な執行をゼロにする。	○7月に私費会計基準に沿った私費の適切な運営について会計担当者に周知し、適正な会計手続きを励行した。 ○全職員を対象にした研修会を実施し、会計処理手続きの再確認を行った。 【達成状況】 適切な会計処理を行い、不適正な執行はなかったため、「目標達成」とする。
県民対応の基本の再確認	不適切な県民対応をゼロにする。	○6月に県民対応の基本を再確認するため、冊子「一人ひとりが県の顔～より良い県民対応のために～」の抜粋を職員に配付し、電話対応の基本などを再確認し、保護者を含めた県民に対して不適切な対応がないよう徹底した。 【達成状況】 電話対応を含め、年間を通して適切な対応ができたため、「目標達成」とする。

#### ○平成29年不祥事ゼロプログラムの達成状況及び平成30年度に取り組むべき課題

不祥事は、関係者に被害を与えるばかりでなく、県民の信頼を大きく裏切る行為でもある。本校では、各グループが所掌する関連の業務について不祥事防止研修の講師を担当し、主体的に不祥事を防止する取組みを行っている。その中で、平成29年度は計画どおりの事故防止会議および研修等を実施することができ、不祥事ゼロという目標を達成することができた。

特に、個人情報等の管理、情報セキュリティ対策においては、個人情報の持ち出しを必要最小限に抑えただけでなく、教務手帳の一元管理や個人情報に係るデータの取り扱いなど校内における管理体制も整備することができた。また、会計事務の適正執行においても、研修だけでなく複数の目でチェックする体制を機能させ、適正な執行を行うことができた。今後は年々生徒数が減少する中、限られた予算をいかに有効活用していくかも課題となる。執行内容も含めて、適正な執行に努めていきたい。

定時制課程においては職員数が少なく、一人ひとりの業務内容が多岐にわたり業務量も多い。しかし逆にそれを強みと捉え、全職員で連携をとりながら気になることはすぐに声を掛け合うという職場環境の中で、不祥事をゼロにすることができたと考える。今後数年で職員が大きく入れ替わる状況も想定される。組織として不祥事を防止する体制を今後もさらに整備し、学校全体として不祥事を徹底防止する体制づくりを構築していきたい。